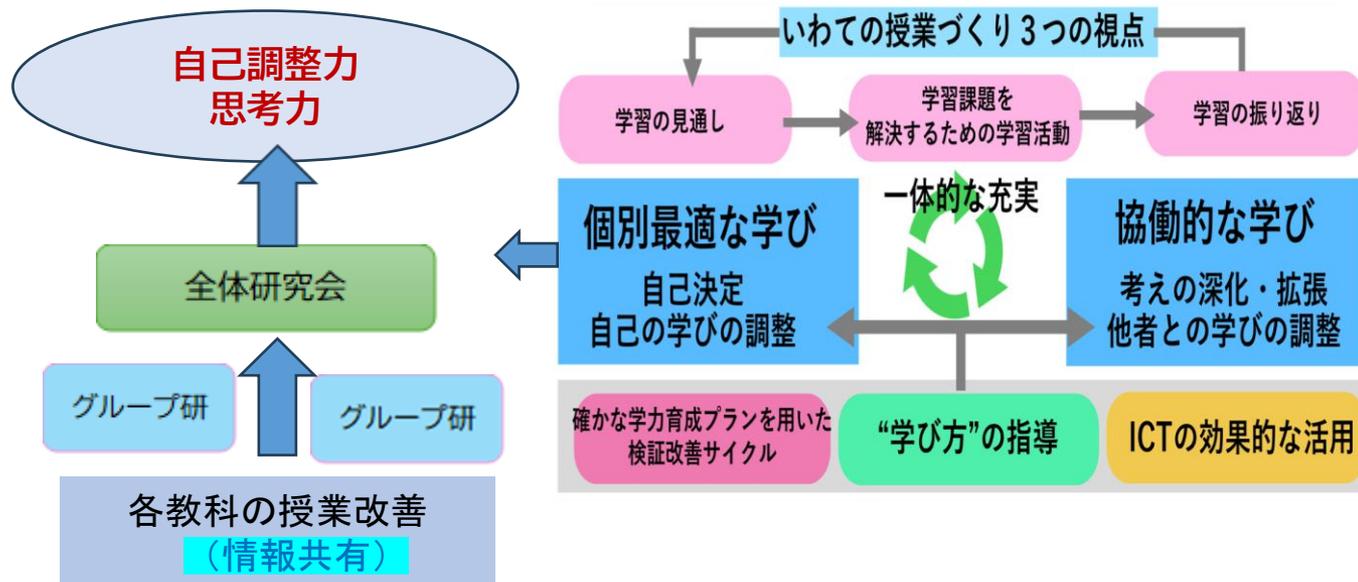


## 視点1：全教職員で取組を推進するための組織運営

### 《取組内容》



- 1 「思考力につながる自己調整力」を高めるために効果的な手立てを各教科で検討し、実践する
- 2 「育成を目指す資質・能力を効果的に高め得る実践であったか」について、協議しブラッシュアップする校内研究会にする
- 3 生徒の実態を適切に把握し、情報共有する

### 《提言》

- 生徒の実態を適切に把握し、生徒の資質・能力育成に“より効果のある”手立てを組む。
- 育成を目指す資質・能力を質問紙項目レベルで教職員間で共有し、目標を明確化する。
- 手立ては、生徒の実態を踏まえ、各教科の先生の創意工夫によるものを実践し研究会で議論し高め合う。

## 視点2：学年や教科を超えた組織的な授業改善の推進

## 《取組内容》

## 1 単元構想の一覧表の活用

→どのような力を身に付けることを目的としているかを生徒に明示する

## 2 学習の流れの提示

→効果的な学び方を例示し選択させる

## 3 ICT教材で内容の理解を深める

→生徒が自ら調べ、学んだことを深める

## 4 単元を貫く問いの明確化と振り返り

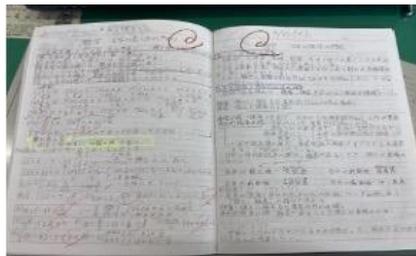
→単元前後の考えの変容を認識させる

## 5 家庭学習の取り組み方の見直し

→「出す家庭学習」から「できるようになる家庭学習」へ高める

## 6 学習コンクール等のやり方の見直し

→生徒の実態にあった内容選定へ



国語	漢字の学習 P11 次回テスト
数学	基礎知識の復習
社会	都道府県と県庁所在地 覚える
英語	テストの95%へかえ復習
理科	テストの復習
その他	

## 《提言》

- 生徒が自走する学びは、単に委ねるだけでなく「学び方」を学んだ上で選択できるようにする。
- 「目標設定」と「学び方の振り返り」で“時間”は短くても力の付く家庭学習”へ見直しを図る。
- 諸調査問題で弱かった内容を「学び合い」で「分かる」「できる」「実感をもたせる。」

## 視点3：調査結果の積極的活用

### 《取組内容》

“認知能力”に確実に繋がる“自己調整力”を育成していく

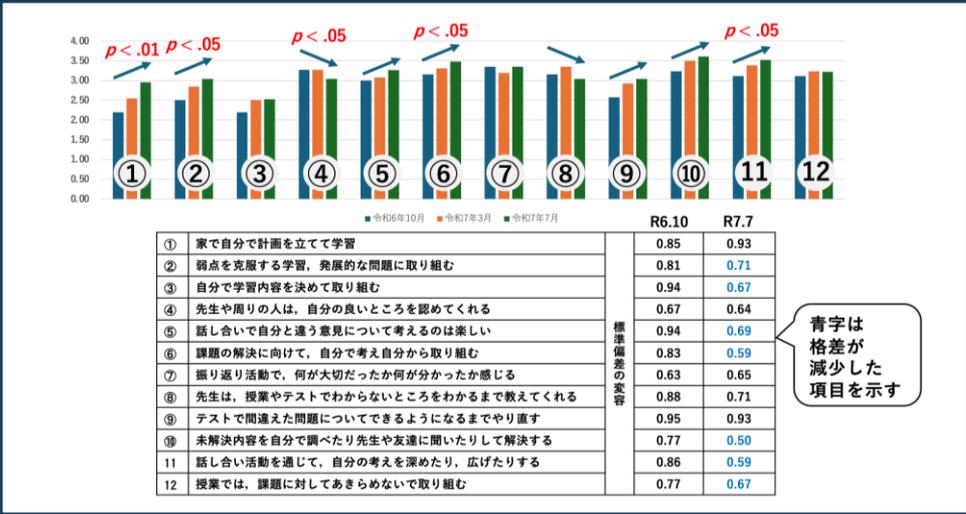
- ① 授業中課題の解決に向けて自分で考え、自分で取り組んでいると思いますか。
  - ② 授業の振り返る活動で、学習内容で何が大切だったかわかったと感じていますか。
  - ③ テストで間違えた問題について、できるようになるまでやり直していますか。
  - ④ 授業で分からなかったところや、理解していないところについて自分で調べたり、先生や友だちに聞いたりして、解決していますか。
  - ⑤ 授業では学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか。
  - ⑥ 授業では課題に対してあきらめずに取り組んでいると思いますか。
- 
- ① 学校の宿題などに加え、弱点を克服する学習に取り組んだり、発展的な問題に取り組んだりしていますか。
  - ② 学校の宿題だけでなく、自主学習に取り組んでいますか。（自主学習とは自分で学習内容を決めて取り組むことを意味します）



「確かな学力育成プラン」の活用方法（数値目標）を見直し効果を向上させる

### 目標数値

- 【自己調整力】上記の質問項目において、
- ・有意な向上が見られる（最低でも $p < .05$ ）
  - ・ばらつきが少なくなる（標準偏差の低下）
- 【思・判・表】思考力問題の県比偏差値に有意な向上が見られる状態にする



R6	2年	知識技能	91.1
		思考判断表現	71.5
R7	3年	知識技能	91.1
		思考判断表現	81.8

+10.3pt

R6	2年	英語	知識・技能	105.3
		語彙・判断・表現	98.2	
		知識・技能	91.1	
		語彙・判断・表現	71.5	
R7	2年	英語	知識・技能	139.5
		語彙・判断・表現	146.9	
		知識・技能	89.1	
		語彙・判断・表現	86.3	

+48.7pt

+14.8pt

### 《提言》

- 諸調査結果を「肯定解答割合」や「平均値」だけで判断せず、様々な数値を活用しながら生徒の実態を多角的に考察する。
- 主体性は主体性でも、「認知能力」に確実に結びつく主体性（自己調整力）に焦点を当てる。
- 諸調査結果を基に自己調整力、さらには思考力が向上したかどうかを分析する。